

# 広島人の功績から読み解く宇品築港の歩み

～保田八十吉や田中喜四郎をはじめとする人々の尽力～

日時：2月28日（土）13:30～15:00

明治22年に完成した、広島港の前身 宇品港。広島を発展を支え続け、その地は現在も旅客ターミナルなどの施設で賑わっています。築港を指揮した千田貞暁の名は知られていますが、事業を支えた肝心な広島人の記憶は忘れられています。

郷土の先人たちの足跡に触れてみましょう。



☆定員：30人（先着順）

☆会場：宇品公民館

☆申込：2月4日（水）9時から宇品公民館へ来館または電話で

☆講師：中道 豪一 さん



昭和53（1978）年、広島市生。國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了。博士（神道学）。出雲大社 大社國学館講師、広島修道大学人文学部非常勤講師。広島県立図書館友の会会長、広島市歴史コーディネーター（広島市公文書館）、資料修繕監修（広島城）、大崎上島町史編さん委員（編集長）、同町文化財保護委員など。神道研究の一環として、原爆投下前における旧広島市域の文化研究や継承に取り組む。著書：『古地図と歩く広島』（南々社）、『近現代における大崎上島の歩み』（大崎上島町）、『大崎上島 金原さんと馬場さんの残してくれた事』（吉村印刷）、『神道教育研究の課題と展望』（溪水社）、共著『日本史のなかの広島県』（山川出版）、編『超覚寺来暦』（紙販）など。論文多数。

主催：うじな通実行委員会、宇品公民館

【宇品公民館 住所：広島市南区宇品御幸四丁目1番2号 TEL：082-253-2529】